

具体例に学ぶ

e法務ソリューション

デジタル訴訟社会を生き抜くために

text by

佐々木隆仁

AOS Technologies 代表取締役社長

▶ eLaw.jp

vol.

9

デジタル証拠開示への
関心の高まりを実感
第二東京弁護士会の勉強会に招かれて勉強会が始まって以来の
出来事

前回の連載では、警察庁や検察庁、金融庁を中心に、官公庁でもデジタルフォレンジック調査への関心が高まっていることについて、複数の事例を報告しました。それに対し、今回は民間、とりわけ弁護士の方々の間でも、同様の関心が急速に広まっていることをお知らせしたいと思います。

去る1月25日(水)、第二東京弁

デジタルデータの量は
膨大。精査には時間も
手間もかかる

今回、第二東京弁護士会の主催というところで、細かな作業を含め、特別に手順を公開。実演を交えながら、何がどこまで復元できるのかというところを、ご覧いただきました。それによって「ここまで可能なのか」という驚きとともに、最新の技術的成果、そして、事後対策における、証拠保全、解析、報告というプロセスをご理解いただけたようです。弊社の「フォレンジックラボ」の様子も画像で紹介し、携帯電話のメモリチップ取り出し、携帯電話のデータ復元・解析・調査、専用機器に

士会の有志による「電子情報・ネットワーク法研究会」に招かれ、「パソコン、携帯電話のデータ復旧技術による不正調査の実例」と題した講演を行いました。そこで驚かされたのが参加人数の多さです。定員100名のところ、なんと180名もの申し込みがあったということで、主催者いわく「こうした事態は異例で、勉強会が始まって以来の出来事」だったそうです。

さらに、当日の様子はインターネットで配信され、北は旭川(北海道)から南は奄美(鹿児島県)まで、遠方にお住いの方々、また、残念ながら会場に足を運ぶことのできなかった方々から、熱い注目を集めることになりました。

よる保全作業、パソコンのデータ復元・解析・調査など、実際の作業風景をご覧いただきました。

ちなみに、ある不動産会社による詐欺事件では、警察からの依頼で、サーバ6台、パソコン6台を調査。メールを中心に復元を実施したのですが、調査結果をすべてプリントアウトしたところ、A4用紙で約20万ページ、なんと2トントラック2台分に。このように、デジタルデータというのは、実に膨大な量となるのです。その分、事後対策には手間も時間もかかるということがお分かりいただけたと思います。

法とITの関係性が
生み出す
e法務ソリューション

2006年12月、米国連邦民事訴訟規則の改正が行われ、電子データの証拠開示が義務付けられました。いわゆる「eディスカバリー法」です。この法律では、米国で訴訟を起こされたら、日本国内の本社やデータセンターなどにある電子証拠も、開示対象になり得ますので、

フォレンジックツールを
操作し調査の手順を実演

講演の内容は、情報漏洩を軸に、不祥事や事件が生じた際に重視すべき事後対策、そして、不祥事や事件を防ぐための事前対策について、それぞれ弊社が関わった事例を参照しつつ、技術的なアプローチを具体的に解説するスタイルで進めていきました。

この連載で何度も指摘していましたが、情報漏洩の証拠となるパソコンや携帯電話、スマートフォンなどのデジタルデータを復元し、さらに通話履歴や送受信されたデータの分析を行うことを、デジタルフォレンジック調査と呼んで

仮に、訴訟に発展しそうな問題が発生した場合、できるだけ早く内容を吟味し、訴訟となるのかどうか、また、訴訟となる場合は裁判に持ち込むのか、それとも和解するのか等々、さまざまな判断を下す必要が出てきます。今後は日本でもeディスカバリーの重要性が高まっていくでしょう。その際、企業が直接、あるいは、法務を担当する法律事務所が、調査会社に電子データの開示調査を依頼するというケースが増えていくはずですよ。

なお、来る4月20日(金)に開催されるセミナー「デジタルデータ証拠調査の具体的なノウハウ」に、尾崎恒康弁護士(西村あさひ法律事務所・危機管理グループ)とともに参加することになりました。これは、不正行為が発覚した際の対応策を、尾崎弁護士が法的な側面から、私が技術的な側面から、それぞれお話しするというものです。参加費は無料ですので、関心のある方は、ぜひとも、ご参加ください(詳細は126頁の告知をご参照ください)。

法とIT (パソコン、インターネット、メモリ媒体)

記憶媒体ごとのデータ容量

記憶媒体	容量	六法全書
フロッピーディスク	1.44MB	1/50冊分
スマートフォン	16GB	220冊分
ハードディスク	2TB	2万8,000冊分

記録媒体ごとの記憶容量を表した図。メディアの進化とともに、流出の危険にさらされる情報の量も飛躍的に進化していることを示している。